

長野県の埋蔵文化財情報誌



信州の遺跡

第11号

最新調査成果から

とうまりがたごうす

塔鏡形合子の蓋 出土!

長野市 小島・柳原遺跡群



出土した塔鏡形合子の蓋



台脚付の身は模造

塔鏡形合子は、仏塔の相輪形鈕を持つ蓋と台脚付の身で一組となる合口造りの容器である。祖型は紀元前3世紀インドの舍利容器に求められる。小島・柳原遺跡群から出土した塔鏡形合子の蓋の相輪形鈕は三重で、相輪先端の宝珠を欠くが、ほぼ完全な形で残っていた。残存高 6.3cm、最大径 8.2cm を測る。ヒ素を微量に含む銅や鉛の合金製で、8世紀の作と考えられる。発掘資料は、栃木県日光男体山山頂遺跡から出土した13点のみが知られる。伝世品には正倉院宝物10組と法隆寺献納物1組がある。正倉院宝物の塔鏡形合子内に香抹が残存していたこと、僧侶が柄香炉と一緒に持ち仏事を行っている様子が描かれた資料があること等から、香合（香の入れ物）であったとされる。

本例は、平安時代前期の竪穴建物跡の埋土から出土しているが、今まで通常の集落遺跡からみつかった事例はなく、今回の出土例の意味を解明することが、課題となっている。(寺内 貴美子)

新たに前方後方墳を発見—^{みえふき}笛吹2号古墳

飯田市 ^{きたがたにし ほら} 北方西の原遺跡

笛吹2号古墳は、天竜川の支流である飯田松川に面した段丘端部に位置する。古墳の存在は知られていたが、平成27年度の発掘調査で周溝を含む全長が35mの前方後方墳であることが明らかとなった。本古墳と同時期に築造された一辺12m前後の方墳（笛吹5号古墳）とともに墓域を形成している。笛吹2号古墳は、墳丘および埋葬施設は削平されていたが、周溝内から出土した土師器により古墳時代前期（4世紀中頃）の築造が想定される。土師器は特に両くびれ部付近に集中しており、焼成前に底部穿孔された大小の壺形土器が主体である。市内で3例目となる前方後方墳の発見は、前期の様相を考える上で重要である。（飯田市教育委員会 渋谷 恵美子）

『北方西の原遺跡』 飯田市教育委員会 2017)



※写真提供：飯田市教育委員会



笛吹2号古墳の
周溝内出土土師器

北方西の原遺跡全景（右上が北）
（中央が笛吹2号古墳、その左側に笛吹5号古墳がある）

笛吹2号古墳の
東側くびれ部周溝内土師器出土状況

古代寺院の境界を発見

安曇野市

あかしな

あかしなはいじ

明科遺跡群 明科廃寺



明科廃寺遠景（赤枠が遺跡範囲、●は調査地点）



第4次発掘調査完掘状況（南から）

明科廃寺は、昭和28年に個人住宅建築に際して発見された古代寺院である。これまでの発掘調査で、礎敷遺構、掘立柱建物跡および古代の瓦、瓦塔、土器類が出土しており、創建は7世紀末から8世紀初頭とされる。4回目となる平成27年の発掘では寺域西側を調査し、南北方向の掘立柱柵列跡を検出した。この柵列は、地籍図等で寺域西辺と推定されていた位置で確認されたため、寺域西辺境界を区画する施設跡と考えられる。（安曇野市教育委員会 土屋 和章）

（『明科遺跡群明科廃寺4』安曇野市教育委員会 2017）



第4次発掘調査出土瓦

※写真提供：安曇野市教育委員会

復原整備された古墳の補修

千曲市

はにしな

もりしやうぐんづかこふん

埴科古墳群 森将軍塚古墳

史跡 埴科古墳群 森将軍塚古墳は、長野県下最大の前方後円墳である。昭和56年から平成3年まで11年間をかけて、造られた当時と同じ材料、同様の工法で復原整備を行った。古墳の周辺は「科野の里歴史公園」として整備され、長野県立歴史館や千曲市森将軍塚古墳館があり、300校を超える小学校が社会見学や遠足などで見学に訪れている。

森将軍塚古墳は造られた当時と同じ材料で復原したため、冬場の凍結などにより葺石が崩れた。このため、平成25年から28年まで4年間をかけて補修工事を実施した。工事は、崩れた葺石を外して一つずつ積み直したり、割れた複製埴輪の取り替えを行った。また、補修工事が完了した墳丘の3Dレーザー測量を実施し、今後の墳丘変位を計測するための基礎資料とした。

補修事業が完了し、造られた当時の姿を取り戻した森将軍塚古墳を後世に引き継ぐため、皆様のご協力をお願いする。（千曲市教育委員会 小野 紀男）

（『史跡 埴科古墳群 森将軍塚古墳—補修事業報告書—』千曲市教育委員会 2017）



前方部西側〜くびれ部葺石積み直し



※写真提供：千曲市教育委員会



補修後の古墳全景（右上が北）

野辺山高原の旧石器と中世陥し穴 南牧村 矢出川遺跡群 矢出川第Ⅷ遺跡

細石刃石器群を中心とする国内有数の旧石器時代遺跡密集地、矢出川遺跡群で最も古い約3万年前の石器群が発見された。石器集中（ブロック）3か所から177点の石器が出土した。黒曜石のナイフ形石器のほか、結晶形が残る水晶製の石核が注目される。

また、中世の陥し穴もみついている。陥し穴は底面に残っていた逆茂木片の年代測定から室町時代～戦国時代に利用されていたことが判明した。八ヶ岳南麓で確認されていた中世陥し穴の分布域が東へ拡大することとなった。

（長野県教育委員会 谷 和隆）

（『矢出川遺跡群 矢出川第Ⅷ遺跡』長野県埋蔵文化財センター 2017）



遺跡からの風景（八ヶ岳を望む）



水晶製の石核



陥し穴

弥生時代後期初頭の集落跡 長野市 浅川扇状地遺跡群 本村南沖遺跡

長野市街地が広がる浅川扇状地扇中部の西端に位置する。本遺跡では弥生時代後期と平安時代9世紀後半の集落跡が見つかった。特に弥生時代後期初頭吉田式期の竪穴建物7軒や掘立柱建物1棟から構成される集落は、出土遺物の様相から、存続期間は短く、吉田式土器の標式遺跡である吉田高校グランド遺跡の集落跡とほぼ同時期であることがわかった。吉田式期の複数の住居を構えた集落跡の発見例は少なく、浅川扇状地上での集落域の分布と広がりを考えるうえで貴重な事例となる。（長谷川 桂子）

（『浅川扇状地遺跡群 本村南沖遺跡』長野県埋蔵文化財センター 2017）



弥生時代の竪穴建物跡



弥生時代の土器

近年、教育の場では、実際に体感できる教材へのニーズが高まっている。何か良い題材がないか検討したところ、研究用に測定した柳沢遺跡出土銅戈の3次元データが、鋳型設計に使えることがわかり、これを活用することになった。

銅戈は非常に薄く、刃先など細部に溶銅がしっかり回るか心配だったが、専門業者をお願いして、湯口（注ぎ口）場所の変更などといった工夫を重ね、鋳型を成形し、弥生時代の成分に近い銅合金を鋳型に流し込んで、申し分ないものができた。最後の磨きは、人間の繊細な感覚に頼らなくてはならない微妙な部分が多く、担当者どうし慎重な議論を重ね、仕上げを行った。

こうして、今年3月に、復元銅戈が完成した。体験学習などで見たり触れたりすることができる。あなたも古代人の感動を追体験してみたいはいかがだろうか。（川崎 保）



銅戈の鋳型（制作：株式会社コヤマ）



鋳放した状態



銅を溶かして流し込む
（鋳造：株式会社小松製作所）



完成した銅戈（上：2号、下：5号）



どろがちゃん



ばらばらになって出土した土器を本来の姿に戻すため、破片をつなぎ合わせる作業を接合と呼ぶ。

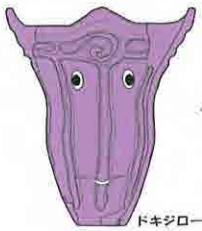
文様、胎土、焼成具合、色調などをよく観察し、一つの個体にまとまりそうな破片を集め、割れ口が合うかどうか確認する。接合できた破片が多いほど、器形や文様を正確に捉えることができる。また、離れた場所から出土した破片の接合が、当時の人々の行動を考える手がかりになる場合もある。そのため広い範囲で、根気よく破片を照合していくことが大切である。

接合の確認が終了したら接合可能箇所に印を付け、次に接着剤で接着してテープで固定し、組み上げてゆく。接着剤がしっかり硬化すると、接合作業は完了である。

(水澤 教子)



接合を確認する



ドキシロー

わたしも 接合してもらいました!



接合可能箇所に印をつける



接着剤が硬化するまでテープで固定する

埋文本棚



①



『信州の縄文時代が実はすごかったという本』
藤森英二
信濃毎日新聞社 2017

②



『古代の坂と堺』
荒井秀規・市澤英利編
高志書院 2017

縄文時代中期の長野県、特に八ヶ岳山麓は「縄文王国」と称されるほどの繁栄を極めた。

①はこうした全国的にも名高い遺跡・遺物を中心として県内の縄文時代をわかりやすく解説する。

八ヶ岳のみならず四方を山に囲まれた長野県では、旧石器時代以来、峠（坂）を通じて他地域と交流してきた。②はそうした「坂と堺」に焦点をあて、古代における境界地域の様相に迫る論文集で、県内では東山道の入口にあたる神坂峠および伊那郡と、出口の佐久郡を取り上げ、その独自の様相を県内の4名の研究者が考察する。(櫻井 秀雄)



珍しきもの

磬

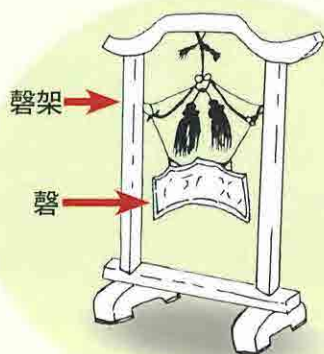
おだれ 佐久市尾垂遺跡出土の仏教遺物

磬とは、仏事で用いられる凡音具（読経の合図に鳴らす仏具）の一種である。中国の楽器が起源で、『法隆寺伽藍縁起并流記資材帳』（747年）に「磬」の記載があり、8世紀には日本で使用されていたと考えられている。一般的な日本の磬は銅や鉄の鋳物で、左右対称の山形で中央部に蓮華座などの撞座（鳴らすために叩く箇所）がある。仏事では木製の磬架に吊り、僧侶の座の右脇に置いて使用する。

出土した磬は鉄の鋳物で錆が著しい。上部中央には紐を通して吊るすための鈕が一箇所（一部損壊しているが）見られる。形はやや歪んでいるが「へ」の字形で、輪郭の外縁部には縁取りがみられる。中央部の撞座は認められない。



尾垂遺跡から出土した鉄製の磬



お寺で見かけるよ
バチでたたくんだね



尾垂遺跡は佐久市の千曲川を望む丘陵の斜面に営まれた古代から中世の集落跡である。仏教関連の遺物が出土したことから、信心深い人々がいたか、または寺院などが存在したことが推測される。（藤原 直人）

（※幅 12.8cm×高さ 6.5cm×厚さ 1.1cm、重さ 163 g）

長野県埋蔵文化財センターの展示室を公開しています

展示室は平成 24 年に長野県埋蔵文化財センター本館 1 階にオープンして以来 5 年になります。発掘・整理作業中の遺跡から、近年の成果を展示・公開しています。面積は 50㎡と小さいですが、発掘調査での最新の成果を随時公開し、皆様にお披露目していき

たいと思います。

ご近所の方などとお誘い合わせの上、お気軽にお越しください。担当職員がさまざまなエピソードとともに解説いたします。



★埋文センター展示室のご案内★

☆公開日：月～金曜日（年末年始・祝日を除く）

※平成 29 年 8/14(月)～16(水)はお休みです。

☆公開時間：午前 9 時から午後 5 時まで

☆入場無料

※ご入場の際は、受付に一声お声掛け下さい。

※団体でのご利用は事前に連絡をお願いします。



お気軽にどうぞ！

考古学の窓

弾道ミサイル、核実験、無差別テロ。今世界では、物騒なニュースが続く。

日本で集団的な戦闘が始まったのは、一般に弥生時代からと言われている。確かに、佐賀県吉野ヶ里遺跡では傷ついた戦士の墓が複数みつまっているし、中部・関東地方にも防御的な濠を巡らせた集落遺跡がある。2007年10月、中野市柳沢遺跡から弥生時代の銅戈が8本出土した。銅戈は中国の殷代に登場した武器だが、国内では豊作を祈る儀式の道具に転じたい。県内からは金属製の剣や鏃、鉾なども出土している(本誌第7号参照)。なかには武器に用いたものもあろうが、今のところ確かな証拠はない。

さかのぼって縄文時代。茅野市駒形遺跡では、未成品も含め1,671点の石製の鏃が出土した。福島県三貫地貝塚や岩手県宮野貝塚では鏃が刺さった人骨が出土したが、こうした事例は極めてまれで、縄文人は狩猟の道具として鏃を用いていた。駒形縄文人は協同で原石の黒曜石を入手し、剥片素材を得て、狩猟具に加工していたらしい。そのほとんどは霧ヶ峰高原の西側、下諏訪町星ヶ台から産出する。そのほか、和田峠や蓼科ばかりか、遠く静岡県天城産の黒曜石も入手していたようだ。駒形遺跡では、出土土器の型式や胎土分析からも、縄文人の広範な交流の実態を指摘できる。

星ヶ台の北西には2015年に史跡指定された星ヶ塔黒曜石原産地がある。下諏訪町は今年4月、これらの遺跡を紹介するガイド施設をオープンした。黒曜石をテーマにした展示施設としては長和町の「黒曜石体験ミュージアム」に続き2館目である。

昨今、自国のため他国との間に垣根を設けようとする風潮が高まっている。およそ1万年の長きにわたり、協同・交流をキーワードに暮らした縄文人の生きざまを、改めて見つめ直してみたい。(平林 彰)



深さ3mの黒曜石採掘坑の底から地上を見上げてみた
(下諏訪町埋蔵文化財センタージオラマ)

編集後記

今号では、昨年度に報告書が刊行された遺跡をはじめ、近年の発掘調査成果を紹介した。笛吹2号古墳の発掘成果は、信濃における前方後方墳の成立と系譜を考えるうえで重要な資料となる。また、古代寺院の寺域西辺が確認された明科廃寺、小島・柳原遺跡群出土の塔鉢形合子、尾垂遺跡出土の磬は、いずれも仏教文化の地域的展開を物語る資料である。

発掘成果の報告とその歴史的位置付けを行うことは埋蔵文化財行政に携わる者の責務だが、市民が文化財を活用できる機会や場を整えてゆくことも大切である。森將軍塚古墳の周辺は、歴史を学習できる公園として整備されており、築造当時の姿に復原された古墳を保つために補修が続けられている。

昨年度、当センターは柳沢遺跡出土銅戈の復元を行った。儀式や祭祀の場で弥生人が目にしていた輝きを、我々もまた体感することができる。柳沢銅戈の原資料は中野市立博物館で、復元品は現在、当センター展示室で公開している。ぜひ、両者とも御覧になっていただきたい。

県内の発掘調査報告書は、長野県埋蔵文化財センターおよび長野県立歴史館で所蔵している。また、その多くはインターネットの「全国遺跡報告総覧」(<http://sitereports.nabunken.go.jp/ja/list/20>)からダウンロードできる。(若林、黒岩)



本号に掲載した遺跡の位置

(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157
<http://naganomaibun.or.jp/> 印刷: 奥山印刷工業株式会社

この冊子は、平成29年度地域に特色ある埋蔵文化財活用事業で作成しました。